

大分教育事務所訪問②-56 (計129) 大分市立桃園小学校に学ぶ2

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「自他を認め合い、学力・体力を高め、より良く生きる子どもの育成」を達成するため、スローガンを「桃小っ子 やさしく かしこく 元気よく」として、それぞれ3部会の目標や取組指標を定め、毎月検証、改善を行っています。特に注目した点は、子どもの家庭での過ごし方に課題があったことから、10月は学力と体力の2チームが協同して家庭学習と生活習慣の改善を企画し、保護者と連携して取り組まれ、改善が行われたことです。

また、働き方改革においては、超過勤務時間をグラフで表すとともに、全職員から超勤削減のためのアイデアを募集し、「今月の手立て」として知らせることで、効率的な働き方の具体的な方法を知るだけでなく、教職員の意識改革へとつながっています。

このように、それぞれの分掌組織や学年による共同的な実践や、行事の見直しを推進するためにも、今後は、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を、皆さんで協議して定めてみてはいかがでしょうか。

このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることが出来ます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながると期待されます。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 P47 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 例：ア 言語能力」

授業から学ぶ

全学級の授業を参観させて頂きました。特に道徳を大切にしてきたことから、授業中には拍手や笑顔があふれ、学び合う姿が見られました。また、掲示物からも学校が動いていると感じました。

今後は指導案における「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」にして表記してみてもいかがでしょうか。そのことで、教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善がより推進されると思いました。

